

知って備える 防災メモ

第15回



新しい『防災マップ』が完成しました



一冊に集約



▲これまで配布した防災関係のマップ
(登別市防災マップ、大津波における高台の避難場所マップ、北海道太平洋沿岸の『津波浸水予測図』、胆振幌別川及び来馬川洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ)

●古い防災マップなどはどうすればいいの？

新しい防災マップは4月中に町内会を通して各世帯へ配布します。

これまでに配布してきた『防災関係のマップ』は、廃棄してください。

- 新しい『防災マップ』の特徴
- 1 これまで配布した『防災関係のマップ』を一冊にまとめました。
 - 2 東日本大震災を契機に見直された津波の浸水予測など、最新の災害予測情報を掲載しました。
 - 3 表示範囲の広い地図を採用し、自宅周辺の地理や避難所・高台の避難場所までの経路などを確認することができるようになりました。

●どのように活用すればいいの？

防災マップは、あらゆる災害から自分の命を守るために準備すべきことや、知っておくべき情報を掲載しています。

一人一人または家族で内容を確認し、『地域での防災力』を高めるため、町内会などの防災訓練や研修会でも活用してください。

「災害は忘れた頃にやってくる」

のではなく、「災害は明日」でもやってくる」という『意識の備え』が必要です。

※防災マップの内容について、説明が必要な町内会などは、ご連絡ください。

問い合わせ

総務グループ

(☎05)11130

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別修道館

『登別修道館』は、昭和57年に創立した剣道スポーツ少年団です。毎週火・木・金曜日の18時30分から20時30分まで、富岸青少年会館で幼稚園児から中学生までの18人が、6人の指導者と共に稽古に励んでいます。

指導者が剣道を教え、父母が見守り、大人がそれぞれの立場から剣道を通して子どもを育成しているという同道場。館長の伊藤正さん（いとうただし）は指導方針について「勝つための技術だけではなく、大きな声であいさつをする、靴箱を整頓する、道場へ入るときに一礼するなどの礼儀作法を重んじています」と話してくれました。

父と姉の影響で幼稚園児の頃から剣道を始めたキャプテンの笹



▲気迫に満ちた稽古の様子

勝つための技術だけではなく、礼儀作法を重んじています

道場では学年を超えた交流があるため、下級生は上級生から学び、上級生は先輩としての自覚を持つようになるそうです。笹原さんは「後輩をまとめ、声を出して全員を盛り上げるよう心掛けています」と、周囲にも気を配りながら稽古に臨んでいました。

見学を希望する方は太田さんまで。
(☎090)1377218431

サケの生態を学ぶ子どもたちの姿が印象的

「通学中に富岸川の中を眺めていたら今年もサケが上ってきたと児童が喜んだり、自然産卵を終えたサケの死骸は川に生息する生き物の餌となり、人間が死骸を川から片付けることは子どものおやつを取り上げることと同じという話を児童が興味深く聞いたりするなど、子どもたちが関心を持ってサケの生態を学ぶ姿が印象的でしたね」と話す河上清一さん。

登別をはじめ道内各地の自然に精通し、自然愛好家としても活躍していた河上さんは、平成12年、富岸小学校から富岸川の現状について児童向けに講演してほしいと依頼を受けます。

「当時の富岸川には魚道がなく、護岸工事や落差工の影響で魚は姿を消していました。講演では『おじいちゃん・おばあちゃんから、昔の富岸川にはサケ・マス・カジカなどがいたと聞いたけど、今もいるの』など、子どもたちから熱心な質問を受け、次第に富岸川を以前のようにたくさんのサケが上る川にして、子どもたちに見てもらいたいとの思いを強くしました」と、河上さんは10年以上続いた



▲サケの稚魚放流（富岸川）

『サケの体験学習』の始まりを振り返ります。

これから子どもたちと関わっていきけたらうれしい

富岸小学校の児童から、親しみを込めて『サケの先生』と呼ばれている河上さん。2月には、これまでの感謝の気持ちがこめられた全校児童の感想文が贈られました。

「私も子どもたちと一緒に勉強してきました。子どもたちはサケの生態だけではなく、生命の大切さを学んでくれたと思います。」

『サケの体験学習』は今年春の稚魚放流で一区切りとなりますが、これからも自然体験学習などのお手伝いを通して、子どもたちと関わっていきけたらうれしいですね」と笑顔で話す河上さん。

これから子どもたちとの交流を楽しみにしています。



KIRARI

かわ かみ せい いち
河上清一さん(美園町)

富岸小学校では、平成12年から毎年、3年生を対象に『総合的な学習の時間』の中で、『サケの体験学習』に取り組んでいます。

体験学習の開始当初から講師を務めている北海道ボランティアレンジャー（自然解説員）の河上清一さんは、採卵や稚魚の育成・放流などの体験を通して子どもたちにサケの生態を知ってもらおうと、10年以上に渡り指導を続けてきましたが、今年春の稚魚の放流を最後に体験学習の指導を終えることになりました。

河上さんに、体験学習のきっかけや子どもたちとの思い出などを聞きました。

自分も子どもたちと一緒に勉強したサケの体験学習



昭和7年、小樽市生まれ。81歳。

室蘭市内の企業に在職中から山岳指導員の資格を取得し、全国各地の山を登る。退職後は自然愛好団体の代表や自然解説員としても活躍するほか、現在は特定非営利活動法人キウシト湿原・登別の理事を務める。